

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

『万葉集』をはじめとする古典に、「さやけし」とか「さやかなり」という言葉があります。それは、清らかなケシキを褒める言葉でもあります。清らかな心<sup>a</sup>の内をいう言葉でもあります。この私が、「さやけし」と感じた瞬間<sup>瞬間</sup>の話をします。

私の教え子で、宮城県気仙沼市出身の女子学生がいました。二〇一一年の東日本大震災<sup>東日本大震災</sup>で甚大な被害<sup>被害</sup>を受けた街です。ちょうど三年生で、帰省<sup>帰省</sup>している最中に、彼女は被災<sup>被災</sup>したので、大学側は慌て<sup>慌て</sup>ました。私も慌てました。私たちは何度も電話をしたのですが、まったく繋が<sup>つな</sup>りません。三日目のこと、ようやく電話が繋が<sup>つな</sup>がって、（A）しました。彼女は、早口で、次のように言いました。

ありがとうございます。私とその家族は無事です。今、電話が繋がりましたが、電話が繋がらない<sup>b</sup>人がたくさんいます。ですから、これで電話を切ります。奈良大学に帰る<sup>c</sup>のは、少し遅<sup>遅</sup>れます。申し訳ありません。

こう言って、彼女はすぐに電話を切りました。私は、彼女の偉<sup>偉</sup>さを知りました。自分たちが長く話していると困る人たちもいる。（1）、これで電話を切りますと言ったからです。五月の半ば過ぎに、彼女はようやく、キャンパスに戻<sup>もど</sup>って来ました。彼女は私たちに、こう話してくれました。

いろいろなお手伝いをしました。三月後半になると、だいぶ落ち着いてきました。

（2）、高校の同級生と話し合<sup>あ</sup>って、こんなこと<sup>こと</sup>をはじめたのです。何のお役にも立てない<sup>d</sup>んですけど、津波<sup>津波</sup>があつたのは三月でしょ。高校に入学が決まっていた子たちは、もう制服を買っていたんですね。（3）、それを津波で流された人も多かつたんです。考えてみたら、私たち卒業生の家には、制服がまだあるでしょ。思い出しに一着くらいは、とっておくものです。その制服を借り集めて、全部サイズを書いて、避難所<sup>避難所</sup>の一室に用意したんです。そして、制服がない人は、貸し出します。入学式<sup>入学式</sup>の時に、制服がないというのは、かわいそうじゃ<sup>e</sup>ないですか。それに、被災者<sup>被災者</sup>の方々は、中途半端<sup>中途半端</sup>にドウジョウ<sup>ドウジョウ</sup>されるのは、いやなんですよ。あの人は、制服がないのは、かわいそうだなあ、というようにね。だから、制服のレンタル屋<sup>レンタル屋</sup>みたいなことをしました。お金は、タダなんですけど。

でも、しまっていた制服が役に立ったとい<sup>い</sup>って、貸した方が、喜んでくれたんですよ。

恥ずかしい話ですが、彼女の方が、私などより、ずっと大人だし、立派<sup>立派</sup>だと思<sup>思</sup>いました。だから、私は、彼女のような人間になりたいと思<sup>思</sup>いました。人には、人それぞれに、プライド<sup>プライド</sup>というものがあります。尊厳<sup>尊厳</sup>というものがあります。被災者に衣服<sup>衣服</sup>を与えればよい。食事<sup>食事</sup>を与えればよい。住むところ<sup>住むところ</sup>を与えればよいというものではないのです。（B）というものがなくてはなら<sup>ら</sup>ない<sup>ない</sup>ということを、彼女から学んだのでした。ボランティア、ボランティアというけれど、その場に行<sup>い</sup>って、自分で感じて、自分でできることがないか、探すことが大切<sup>大切</sup>なものでしょう。心と心というものを、どう繋<sup>つな</sup>いで、それを力<sup>ちから</sup>としてゆくのかということ、私は学んだのです。はて、どつちが学生か教師か？ その話を聞いていた落語研究会<sup>落語研究会</sup>の部員<sup>部員</sup>たちが、彼女が働<sup>た</sup>いた気仙沼<sup>気仙沼</sup>の地区に、出前<sup>出前</sup>の寄席<sup>寄席</sup>をすることにしました。彼女は、すぐに貼り紙<sup>貼り紙</sup>を大学構内<sup>大学構内</sup>に出しました。「寝袋<sup>寝袋</sup>を持<sup>も</sup>っている人は、貸<sup>か</sup>して下さい。気仙沼<sup>気仙沼</sup>で使<sup>つか</sup>います」。（4）、三十以上の寝袋<sup>寝袋</sup>が三日で集まりました。彼女は、こう言<sup>い</sup>いました。もちろん、行<sup>い</sup>けば布団<sup>布団</sup>は貸<sup>か</sup>してくれますよ。でも、ボランティアに行<sup>い</sup>った私たちが、被災者<sup>被災者</sup>の方々にお世話<sup>お世話</sup>してもらうことになるケースが多いんですよ、と。

私は、彼女の心を知<sup>ち</sup>って、「さやけし」「さやかなり」という言葉を思<sup>し</sup>い起<sup>おこ</sup>しました。まず、なによりも行動<sup>行動</sup>がさわやかで、明るい。彼女の心も「さやけき」ものであると思<sup>し</sup>うし、彼女がボランティア<sup>ボランティア</sup>をしているコウケイ<sup>コウケイ</sup>を想像<sup>想像</sup>すると私<sup>わ</sup>の心も「さやか」になります。

日本も捨てたもんじゃない。

（上野誠「入門万葉集」より）

問一 ――線①～⑥のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みを答えなさい。

問二 ( ) 1～4にあてはまる言葉を次から選んで記号で答えなさい。

- ア ところが      イ そこで      ウ すると      エ だから

問三 □ b、d、e、gの「ない」と、□ a、c、f、hの「の」のうち、それぞれ意味が他のものと異なるものを選んで記号で答えなさい。

問四 この文章には次の文章が欠けています。入るべきところの直後の五文字を抜き出しなさい。(句読点も字数に数えます)  
役に立つ嬉しさとというものも、あるんですよ。

問五 ( A ) にあてはまる言葉を次から選んで記号で答えなさい。

- ア そつと      イ はつと      ウ ほつと      エ すつと

問六 ――線(1)と作者が感じたのはなぜですか。次から選んで記号で答えなさい。

- ア きびしい災害の中で疲れているのに、明るさを失っていないから。  
イ たいへんな状態の中にも、的確に自分の状態を説明していたから。  
ウ ほかに電話を必要としている人に対して心づかいができていたから。  
エ 地震で身内に不幸があったのに、しっかりと行動しているから。

問七 ――線(2)「こんなこと」とは、どんなことを指していますか。「こと」につながるように文中から三十字で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。(句読点も字数に含みます)

問八 ( B ) にあてはまる言葉を次から選んで記号で答えなさい。

- ア 相手を思いやる心      イ 生活ができる自信  
ウ 尊厳を取り戻すこと      エ 苦しさを忘れる時間

問九 ――線(3)のように彼女が寝袋を貸してくれるように求めたのはなぜですか。次から選んで記号で答えなさい。

- ア 寄席を行うためには寝袋が必要であり、気仙沼では手に入れないから。  
イ ボランティアの人は疲れているので、しっかり眠ってほしいと思ったから。  
ウ 寝袋を持って行けば、被災者に布団を用意する苦勞をかけずにすむから。  
エ 被災者の好意に甘えてしまつては、自分たちのプライドが傷つくから。

【二】次の詩と鑑賞文を読んで、後の問いに答えなさい。

桃の花

山之口 猷

いなかほどごとと

おともだちからきかれて

ミミコは返事にこまったと言うのだ

こまることなどないじゃないか

沖繩じゃないかと言うと

沖繩はパパのいなかで

茨城がママのいなかで

ミミコは東京でみんなまちまちと言うのだ

それでなんと答えたのだときくと

パパは沖繩で

ママが茨城で

ミミコは東京と答えたのだと言う

一ぶくつけて

ぶらりと表へ出たら

桃の花が咲いていた

この詩を書いた、父でもあり詩人でもある人は、幼稚園かどこから帰ってきた娘の言葉にびつくりしてしまふ。地方出身なら「いなか」をネタにからかわれたことも、一度ならず「ケイケン」があるかもしれないが、まして戦前は沖繩に対する差別が横行していたから、もしや娘も、と内心（ 1 ）したのはないだろうか。

いなが沖繩だと言えなかったのだろうか、いや、そんなことは気にする必要ないぞ、と娘を励ます気持ちもあつたのだろう。なのに娘のミミコのほうは、沖繩だからどうだ、茨城だからなんだ、とは初めから思っておらず、いなかをコンプレックスともなんとも感じていないようす。父の予想のはるか上を、（ 2 ）飛んでいく。

パパのいなかは沖繩で、ママのいなが茨城で、でもどつちのいなかもミミコのいなかじゃないなあ。自分が生まれ育つた場所といつたら、そうだ、「ミミコは東京」と、あつげらんかと答えを見つけてしまふ。

このあつげらんかの清々しさはなんなのだろう？ そのとき父でもある詩人は、心の中に「 A 」な風が吹き抜けるのを感じたのではないだろうか。親の見知らぬ新しい世界へ踏みだしていく娘を（おそらく目を細めて）見つめ、それからタバコを一ぶくつけて、（ 3 ）表へ出たのではなからうかと想像をかきたてられる。

そのとき目に映つたのが、「 B 」。すすくと健やかに育ちますように、という願いの花が晴れやかに咲いていた。無邪気な心のおかげで、あるとき、（ 4 ）心のつかえが取り払われ、パッと人の心が広々とした自由な場所に辿りつく。そんなカノウセイの明るみがいつでも待っていることを、この「桃の花」という詩は、ミミコと同じくらいあつげらんかとシメしているかのようだ。

（白井明大「二日の言葉、一生の言葉」より）

問一 ―― 線①～④のひらがなは漢字に直し、漢字はその読みを答えなさい。

問二 （ 1 ）～（ 4 ）にあてはまる言葉を次からそれぞれ選んで記号で答えなさい。

ア ひらりと      イ ふつと      ウ ひやつと      エ ぶらりと

問三 〰線 a、b の言葉の意味をそれぞれ選んで記号で答えなさい。

a あっけらかん

- ア すぐに行動しようとする様子
- イ 何も気にかけない様子
- ウ いつもまわりを気にする様子
- エ 子供らしい素直な様子

b 目を細めて

- ア 注意深くじつと見て
- イ 意外なことに驚いて
- ウ まぶしくて目をそむけ
- エ うれしくてほほえんで

問四 〰線(1)の「父の予想」とはどんなことを指していますか。次から選んで記号で答えなさい。

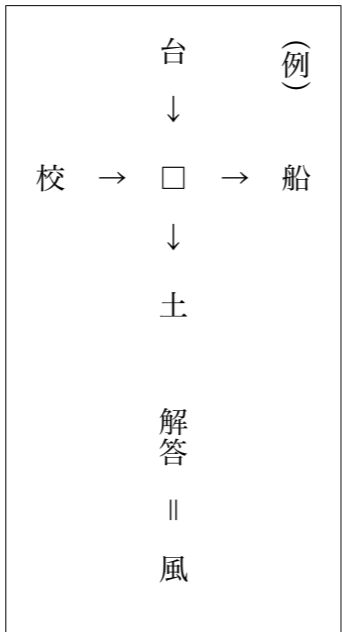
- ア 自分のふるさとを友達には知らせてはいけなないと、娘が信じていたのだろうという予想。
- イ 自分のふるさととは東京なのに、沖縄だろうと友達に言われて、とまどったのだろうという予想。
- ウ 自分のふるさとが沖縄と答えると、友達にからかわれるので返事に困ったのだろうという予想。
- エ 自分のふるさとがどこか分からないので、とても悲しい気持ちになったのだろうという予想。

問五 「A」にあてはまる言葉を次から選んで記号で答えなさい。

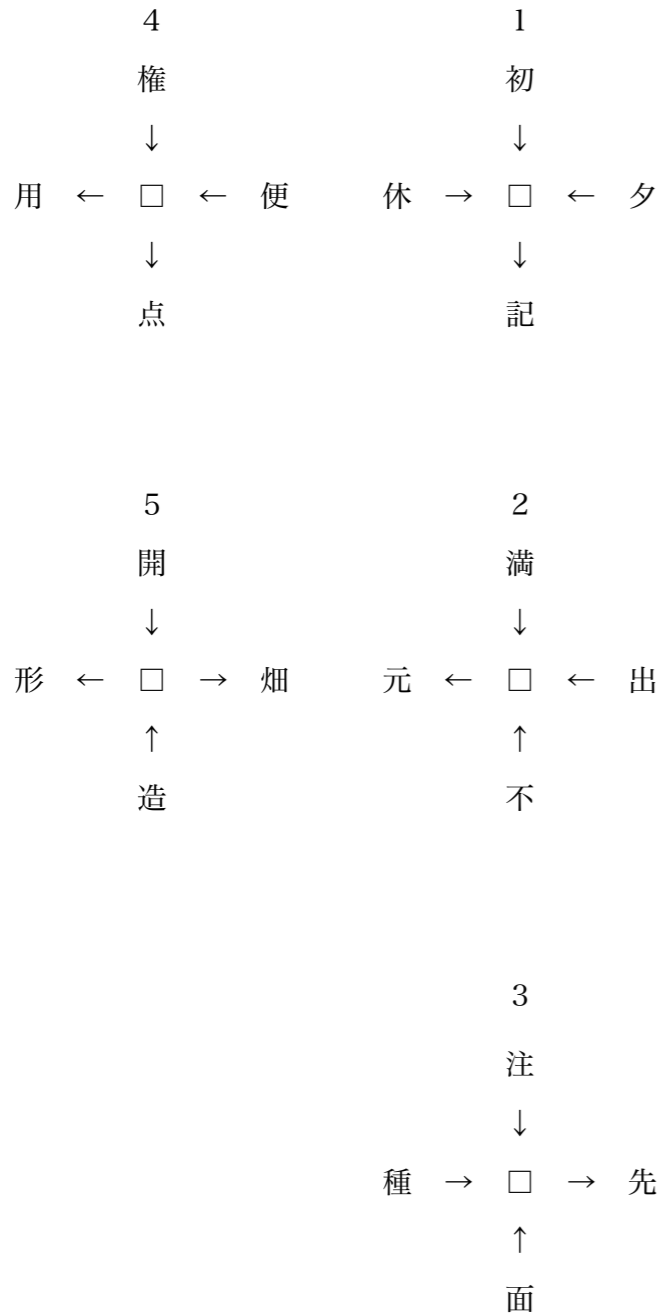
- ア あざやか
- イ ひそやか
- ウ さわやか
- エ はれやか

問六 〰線(2)の「新しい世界」と同じ意味で使われている言葉を、ここから後の文中から五字で抜き出して答えなさい。

問七 「B」にあてはまる言葉を詩の中から抜き出して答えなさい。



【三】次の1〜5の□に漢字一字を入れて四つの熟語を作りなさい。(ただし読む順番は↑印の方向です)



**国語解答**

小計40点

**二** 2点×6

問一	①	景色	ケシキ
⑥		光景	コウケイ
	②	きせい	帰省
	③	過ぎ	ス
	④	同情	ドウジョウ
	⑤	そんげん	尊厳

2点×4

問二	1	工	
	2	イ	
	3	ア	
	4	ウ	

2点×2

問三	ない	e	の	c
----	----	---	---	---

3点

問四	恥	ず	か	し	い
----	---	---	---	---	---

2点

問五	ウ
----	---

3点

問六	ウ
----	---

3点

問七	制	服	を	借	り	ゝ	に	用	意	し	た	こ	と
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

2点

問八	ア
----	---

3点

問九	ウ
----	---

小計30点

**三** 2点×4

問一	①	経験	ケイケン
	②	おうこう	横行
	③	可能性	カノウセイ
	④	示して	シメ

2点×4

問二	1	ウ	
	2	ア	
	3	エ	
	4	イ	

2点×2

問三	a	イ	b	エ
----	---	---	---	---

2点

問四	ウ
----	---

2点

問五	ウ
----	---

3点

問六	自	由	な	場	所
----	---	---	---	---	---

2点

問七	桃	の	花
----	---	---	---

小計10点

2点×5

1	日	2	足	3	目	4	利	5	花
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

小計10点

2点×5

1	○	2	×	3	×	4	×	5	○
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

小計10点

2点×5

1	無(理)難(題)	2	大(同)小(異)	3	(油)断(大)敵
4	品(行)方(正)	5	半(信)半(疑)		

- 5 半(半) (半) (半) (半) (半)
- 4 品(方) (方) (方) (方) (方)
- 3 (断) (断) (断) (断) (断)
- 2 大(小) (小) (小) (小) (小)
- 1 無(難) (難) (難) (難) (難)

【五】次の( )に漢字一字ずつを入れて、四字熟語を完成させなさい。

- 1 明日、先生のお宅にうかがいます。
- 2 私は、先生におつしやりたいことがあります。
- 3 何かあれば、私に申してください。
- 4 先生は、あの絵を拝見しましたか。
- 5 たくさんの問題がいざいます。

【四】——線の敬語に間違いがなければ○、間違いがあれば×を解答题紙に書きなさい。